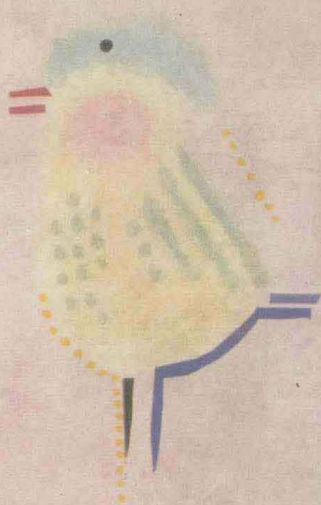


99の人生との出会い

第2集

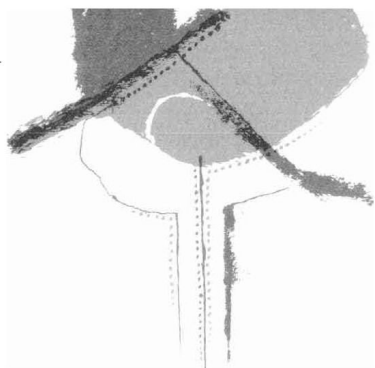
君たちの中に私たちが生きる



理法
社

99の人生との出会い **2**

君たちの中に私たちが生きている





0395-32302-8924

© Ryohei Komiyama 1981

99の人生との出会い (2)
君たちの中に私たちが生きる

一九八一年十一月 第一刷
定価／九八〇円

編者／小宮山量平
（こみやまりょうへい）
発行者／山村光司

発行所／株式会社理論社
東京都新宿区若松町一〇四
電話（03）二〇三一五七九一
郵便番号 一六二一

振替 東京九一九五七三六
乱丁・落丁本はお取替えいたしません。

《兎の眼》《太陽の子》愛読者手記集

99の人生との出会い ● 2

君たちの中に私たちが生きる
もくじ

小宮山量平 編集

第一章 子どもたちのまっすぐな声を子どもたちから父母へ

7

母には仕事という一つの大切な
生きがいがあるからではないんでしょうか

東京都 小学生

宇田川 博美

8

もう一度背中を流す時があれば
そつとその背中に言いたいことがある

京都府 勤労学生

平塚 泉

15

予言だったのか真実のはじまりだったのか
癌は確実に転移して母は動けなくなった

熊本県 主婦

中澤 文

21

意地を覚え孤独がすきになりながらも
やすらぎの場を必死に求めようとしている母

千葉県 公団職員

小谷 雄三

27

父の母に対する思いやりや優しさは
本当の愛情でしかなかったと今はわかる

兵庫県 高校生

大沢 千春

34

明治以来三代の日本人が負って生きた
戦争や人生の傷と桎梏の深さを……

神奈川県 研究所嘱託

山口 洋子

42

父が死ねばわたくしは天涯孤独
逃げ場は天国だけなのでしょうか

山梨県 高校教員

笠井 ルイズ

49

現代の親は自分の苦悩を子どもに与えない
つまり歴史を伝えなくなったのではないか……

広島県 高校生

山^{やま}縣^{がた}

豊^{ゆたか}

56

第二章 君たちの中に私たちが生きる ● 父母から子どもたちへ

生まれてくるあなたよ！

あなたが二十歳になるのは西暦二千年です

大阪府 主婦

坂^{さか}口^{ぐち} 通^{みち}世^よ

64

ひまわりは来年のために実を残しますが
お母さんにも二粒のあなたたちがいます

東京都 主婦

ちば いよこ

69

二人の父さんがいるという生活ぶり
が時として君に酷な結果を招かないかと不安です

東京都 主婦

真^{しん} ひろこ

80

この子らの優しさや心の温かさが伝わり
生命の尊厳を問うことのできるすばらしさ

神奈川県 主婦

渡^{わた}辺^{なべ} 侑^{ゆう}子^こ

90

子どもが考えて懸命に描いた丸を
親は大きな黒丸で囲んではいないだろうか？

愛知県 主婦

御^み堂^{どう} 一^{かず}美^み

96

父親が「母さんの父さん」となることで
真の意味での「父権の回復」が可能なのだ

大阪府
フリーライター

遠^{えん} 藤^{どう} 昭^{あきら}

101

両親がたどった以上にけわしい道を
再び子どもの君がたどろうとしている……

静岡県 小学校教員

池ヶ谷 亘枝 いけがや のぶえ

112

あの時のチョークの痛みが
まだひたいに残っているような気がする

長野県 図書館司書

斉藤 俊江 さいとう としえ

118

私は弥重という子に逢いたかったのです
あなたに私の生命を上げたかったです

長野県 主婦

吉澤 芙路乃 よしざわ ふじの

124

死の来ることはかりを気にかけていては
折角の人生が勿体なさすぎます

兵庫県 自由業

秋田 泰治 あきた たいじ

131

体験としての戦争は語れないだろうが
戦争について語ろうと努力することはできる

大阪府 主婦

谷口 敏子 たにぐち としこ

136

第三章 戦争はつい昨日のことだった 今よみがえる戦争体験

143

モモが生まれるまえ、私たちには
かすかな、しかし確実な不安があった

東京都 大学職員

斉藤 栄一 さいとう えいち

144

戦争を体験した世代が居なくなったとき
果して誰が戦争について語るのだろうか

神奈川県 主婦

関水 紀美子 せきみす きみこ

150

わたしたちはこの太太鼓の音を
小市ツツゐんの太鼓と呼び慣わしていた

東京都 フリー校正者

田村 章

本当のことを言って何が悪い——と叫んだ
祖母を思いだすにつけ公平な情報の大切さを

宮城県 会社技術職員

佐藤 護

砂利の入った白米のごはんは歯にあたるので
歯に力を入れないようにそつと食べた

栃木県
金融関係団体職員

加藤 隆也

科学の進歩は戦争の防止に無力であり
戦争の一髪千鈞の危険性さえもたります

東京都 大学院生

川島 忠興

一つのボタンで戦争ははじまる、そして
その戦争によって無差別平等に人類は死に……

大阪府 主婦

西坂 恵子

赤い血の通っている心ある人間に
戦争などというものを考えられるはずがない

大阪府 中学生

宇野 御幸

いつか地球平和大統領になってみたいと
思ったことがあります

東京都 中学生

鈴木 真

マトウー、アガイタンデヨー、ゾウカリウータン
——底知れぬ愛で包んでくれた祖母がそこにいた

東京都 会社員

新城 真戸

「国のためだ」といつて人を死なせた人たちは
生き残り、戦争責任には口をぬぐい……

埼玉県 元高校教員

佐倉 康

209

やさしさはやさしさと呼び
やさしさを育てるのです

和歌山県 小学生

美濃 圭子

217

私たちは他人を責めて生きていくのか
自分を責めて生きていくのか……

東京都 中学校教員

秋山 専一

220

小さいけれどひとつの希望がある
自分も参加できる小さな運動がある

福島県 主婦

坂井 恭子

226

あとがき

小宮山量平

233

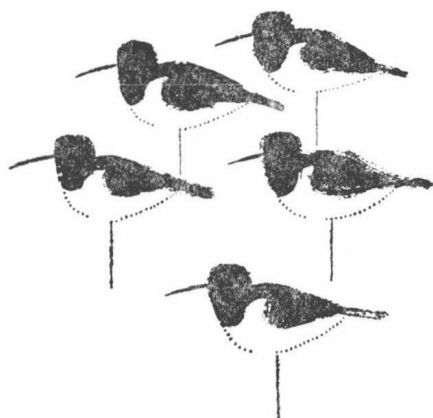
そうてい・カット 杉浦範茂

《99の人生との出会い》 第一巻 ぼくらが生きがいを紡ぐとき 第二巻 人間の痛みによせるおもいを

第一章

子どもたちのまっすぐな声を

子どもたちから父母へ



母には仕事という一つの大切な

生きがいがあるからではないんでしょうか

小学校四年生 10歳 女

(東京都豊島区)

宇田川 博美

私の母は仕事に出ています。ですから、会えるのは、朝早くと夜だけ……。私の気持ちを、そのまま詩にしました。ほかに、私と同じような気持ちの子が、いるかもしれません。その人も、詩を作ったら、このようになるかも……。

母

私の大切な母

仕事にいつている間は

会えませんか。

いつもは ちゃんと

ごうじょっぱりになって

「さみしくない！」

なんていってゐるけど
ほんとはさびしいんです。
この氣持わかつてくれますか。

心のあかり

私の心の中には

ぽっん、と　ひとつ

あかりがあるんです。

それはだれがともしてくれたんでしょう。

キリスト・イエス様が

つけて下さったんです。

でも、きえかかってしまったんです。

あとは、母が

私の心の中に

夜おそくやってきて

しっかりと

あかりをつけてくれたんです。

私の心に　あかりがなかったら

私は、悪まや　くらやみに

まけていたでしょう。
みんなの心にも、ちゃんと
あかりがあるはずです。

仕事場の母

仕事場の母は

生き生きとしています。

前の夜けんかをして

朝には きもちよく

ふるまっています。

それは

仕事——という一つの大切な

生きがいがあるからではないんでしょうか。

これからも、この大切な

仕事をつづけて下さい。

これが今

私に出きるたった一つの事です。

がんばって下さい。

この気持をわかってください

さびしい——って、思った事がありますか？

それは とても

じつとはしていられなくて

テレビをつけたり……

マンガを読んだり……

私もそうなんです。

だから、学校でもっと勉強をしたり

遊んでいたりしたいと思います。

でも家でもやる事がいっぱいあります。

せんたくのとりこみ

夕食のしたく

あらいもの

いろいろたいへんなんです。

私はこういう事はあまりすきじゃなくて

あんまり気がすすまないんです。

全国に、一人でも二人でもこのような人がいたら

私の気持をわかって下さい。

一日をせいっぱいに

みなさんは 一日をせいっぱいに
体を使って

頭を使って

生きていますか？

母は せいっぱい生きている——と、思います。

仕事を、一生けんめいにやっている

ということからわかりました。

そんな お母さんを見て

私も

一秒・一分もむだにせず

一生けんめい生きたいと思います

母へ

お母さん

私は 今なにもできない。

でも もう少し大きくなったら

つぐないをしたい。

どうかその時まで

生きていてほしい。

でも お母さんが

せいっぱいに生きてくれたなら

私は いうことはありません……

別れ

別れ……

それは 生きていくうちに

何度もくるだろう。

でも……

生きていけば いつかあうときが

あるかもしれない。

でも……

“死”という別れは

自分も死ななければならない。

それは とても悲しい。

でも……

それをのりこえて生きていこう

たとえ 私の父や母が死んだとしても

強く生きよう
悲しい別れをのりこえて……

母へ

私は今、

この詩を書きながら思います。

もっとがんばってしごとをしてほしい。

でもこの詩をよんで

がんばりすぎて

病気にでもなったら

とても悲しい気持になるでしょう。

でもこの詩をよんで

がんばって つかれたら

きちんと休んでくれたら

私のいうことは ありません

いつまでも 元気でいてくれたら

もう私の望むことは

なにもありません